

臨床医学における気功・ 遠赤外線の効果

高知県土佐清水市旭町4の4 (〒787-03)

医療法人 修命会

土佐清水病院・丹羽免疫研究所

丹羽 耕三 (執筆)

「研究の動機」 近年、量子力学の著しい進歩により、可視光線以外の（太陽）光線の分析、探知に成功し、中でも動植物の成長に必要なエネルギーを与える $4 \sim 14 \mu\text{m}$ の遠赤外線（育成光線、growth ray）の研究は、素晴らしく、食品業界や、健康器具、医療器具、また汚染水の清浄化へと応用され、時代の脚光を浴びている。

演者は、自分の治療に用いている穀物種子を原料とした天然の生薬の開発、加工処理方法にこの $4 \sim 14 \mu\text{m}$ の遠赤外線を利用していることから、既に10年前に、この遠赤外線（育成光線）の作用機序について特に興味をもち、研究所で、その動物、人体の細胞、機能、さらには癌細胞に与える影響を実験して来た。

今回は、この遠赤外線放射体と云われている花崗岩、セラミック、プラチナ電磁波纖維、トルマリン石、さらには温泉湯や、気功師の手掌、及び3年前から当病院の患者に大量に使用している九州の深山から得られた天降石（SGS）などを用いて、人間の細胞や癌細胞に行なった実験結果を紹介する。

まず、7～8年前から盛んに水の清浄化に使用され始めた所謂 $4 \sim 14 \mu\text{m}$ の波長の遠赤外線を放射する放射体（セラミック、プラチナ、電磁波纖維、トルマリン石等々）が、水を清浄化するというメカニズムは、7～8年前から水のクラスターを切断し、水のチェーンが短くなるから水が清浄化されるのだと説明されていた。この理論は、水のチェーンが短くなるため、長い水のチェーンで包み込まれていた汚染物質中 Cl_2 , CO , CO_2 、 SO_2 等の気体が空中へ飛散し、 Hg , Cd , Cr などの重金属が水の底に沈殿し、水がきれいになるという理論である。演者が実験を始めたきっかけは、水のチェーンを切ると何故食品の鮮度（肉、魚、野菜）を維持出来るのか、また何故病人に使用して健康が回復するのかという点に非常に大きな関心を抱き、研究を始めたのである。

また、当時より水のチェーンが短くなるということは、水の容積の減少、比重の増加をもたらし、水のclusterが動植物の細胞の表面に付着し易くなり、細胞の保湿が保持され、即ち、セラミックなどの布で食品（肉、魚、野菜）を包めば、遠赤外線が放射され、食品中の細胞の保湿が保たれ、鮮度が維持されるのであろうと量子力学で説明されていた。演者は、そこで、然らば何故水のチェーンが切れて、比重が重くなり、細胞の表面に水が付着すると、健康増進、病気の治療、血液循環の促進をもたらすのかという事が大きな疑問であった。

そこで、演者は、水の比重が重くなつて細胞の表面に付着すると、浸透圧の問題で、水が細胞の中まで浸透し易くなる事に気付き、一方、生化学、生理学の原則として、一般に動植物、人間の各細胞が活性、賦活化される（要するに元気に動き始めるということ）ためには、細胞外から、 Ca^{++} が流入して、細胞内の、特に細胞膜の Ca^{++} 濃度が増加

することが必要不可欠であることに着目したのである。そこで、演者は、比重の重くなつた水が細胞内に浸透する際に、細胞外にある Ca^{++} が水と共に細胞内に流入すると想定し、且つそうすることによって、人間、動植物の細胞が活性化されるものと考え、それを証明する実験を始めたのである。

「実験内容」まず、人間の細胞、即ち血液中の白血球（好中球、リンパ球）を採血し、培養液と共に試験管内に入れ、それを所謂遠赤外線放射体で、ある一定時間包み込み、白血球中の Ca^{++} の増加量と白血球の機能、即ち遊走能、貧食能、活性酸素産生能に、リンパ球の幼若細胞現象などを測定した。また、白血病細胞も培養液と共に試験管の中に入れ、同様の実験を行なった。次に、実験的に作ったネズミの悪性腫瘍の上に、これら遠赤外線赤放射体で作った布を巻いておき、悪性腫瘍がネズミの体内で増加するのを抑える力があるかどうかを調べてみた。さらに、食品業界で問題になっている脂の酸化、即ち過酸化脂質の产生に関する影響も、試験管内で過酸化脂質を產生さす実験系を作つておき、その周囲を白血球の実験で行なったと同じように遠赤外線放射体で覆い、過酸化脂質の产生を抑制するかどうかを調べてみた。この過酸化脂質は、人体でも動脈硬化、中風、心筋梗塞、白内障、アトピー性皮膚炎を始め、多くの病気の発生原因となっている。

次に各遠赤外線放射体を超微粉末（直径 1 ミクロン以下）にして、 HgCl_2 を投与して薬物肝炎を誘発させたラットに内服させ、解毒機能の有無も調べた。そして、この超微粉末を 85 例の慢性関節リュウマチ患者に 3 カ月毎日 0・6 g（成人）を内服させ、治療経過を調べた。

更に、今回の実験結果最も著明な効果を示した天降石については、天降石で石風呂・サンドバスを作成し、リュウマチ患者を 15 分間、毎日、1 カ月入浴させ、リュウマチに対する効果と入浴開始前後の患者血清中過酸化脂質値を測定比較した。

「実験結果」結果は、セラミック、花崗岩を始めとする遠赤外線放射体、及び摂取してから 8 時間以内の温泉水、ならびに気功師の手掌は、試験管中の白血球の Ca^{++} を有意に増加させ、且つ白血球中の好中球の遊走能、貧食能、活性酸素能およびリンパ球の幼若化現象をそれぞれ上昇させた。一方、癌である白血病細胞に対しては、 Ca^{++} を低下させ、癌細胞の活動を抑制することが示唆された。また、マウスの移植癌の増大も、各々の遠赤外線放射体で作った布は、有意にその増大を抑制した。また、悪玉過酸化脂質の試験管中の生成も各々の遠赤外線放射体は、これを低下させた。

中でも、前述の、当病院で盛んに患者の治療に応用している九州の深山で得られた天降石（別府、鳥井鉱業）は、上記の効果が最も著しく認められ、特に試験管中の過酸化脂質形成反応においては、他の遠赤外線放射体の 2～3 倍の強力な低下作用を示した。ウサギ

に内服させたHg c 12 の解毒効果に関するても、この天降石が最も肝機能を回復させ、著しい解毒効果を示した。また、リュウマチ患者にも天降石微粉末は優れた治療効果を示し、天降石サンドバスは入浴前に比較し、入浴1カ月後には過酸化脂質が有意に低下した。

「考察」今回の実験結果は、食品業界、医療器具、健康器具で使用されているセラミックを始めとする遠赤外線放射体が有効であるそのメカニズムを説明した。遠赤外線放射体で作った布が、冷え性の女性に有効であるが、これは、過酸化脂質の形成を抑制して、血管壁に過酸化脂質が付着しなくなり、血管内の血流がスムーズになるからであると考えられ、また、これらの健康器具、医療器具の基本は、人体の各細胞の活性、賦活化にあると云える。アトピー性皮膚炎にも有効なのは、乾燥して病的になったアトピーの皮膚の角層の細胞の表面に、水のチェーンの縮小による比重の増加で、水分が角層の細胞表面に付着し易くなり、角層の保湿を向上させ、アトピー性皮膚炎患者の乾燥性の皮膚炎を改善するもとを考える。

また、演者は、当初癌患者にこれらの医療器具、健康器具を使うのに、癌細胞も、人間の正常な細胞（白血球など）と共に活性化し、癌を悪化させるのではないかという懸念があり、癌患者への使用を躊躇していたことがあったが、今回の実験は、天降石のような天然の恵みは、西洋医学のtotal killing（例えば抗癌剤が癌細胞だけでなく、人間の正常な細胞も一緒に叩いて、副作用が出現する事など）のメカニズムと違い、上昇させなければならない正常な細胞の機能は上昇させ、亢進させてはいけない癌細胞のような機能は低下させるという臨機応変の選択が可能な、非常に優れたメカニズムが存在するのだという事が明らかにされた。

最近、巷に行なわれている気功は、気功師の手掌から、この太陽エネルギーから吸収した4～14μmの遠赤外線が再放射されて、これを受けた患者に効果を発揮している事が証明され、キリストなども偉大な気功師と考えられる。昔から行なわれている温泉療法の効果について、以前は、その含有される金属成分によって、その温泉の良悪を判定していたが、温泉の正しい効能は、太陽エネルギー（4～14μmの遠赤外線も含む）を地球が溶岩だった時代に吸収した地底の岩石が、温泉の湧き出る湯に再放射して、そのエネルギーを与え、さらに湧き出した温泉の湯が、湯治客の身体へ、その吸収したエネルギーを再放射して効果を示すものと考えられる。最後に一言触れておきたいことは、我々の実験でも、臨床でも、最も効果のあった九州の天降石は、実は調べてみると4～14μmの遠赤外線はそれ程強力には放射されておらず、未だ科学で、また現在の量子力学で、探知出来ない未知の強力な太陽エネルギー放射があるものと考えられる。